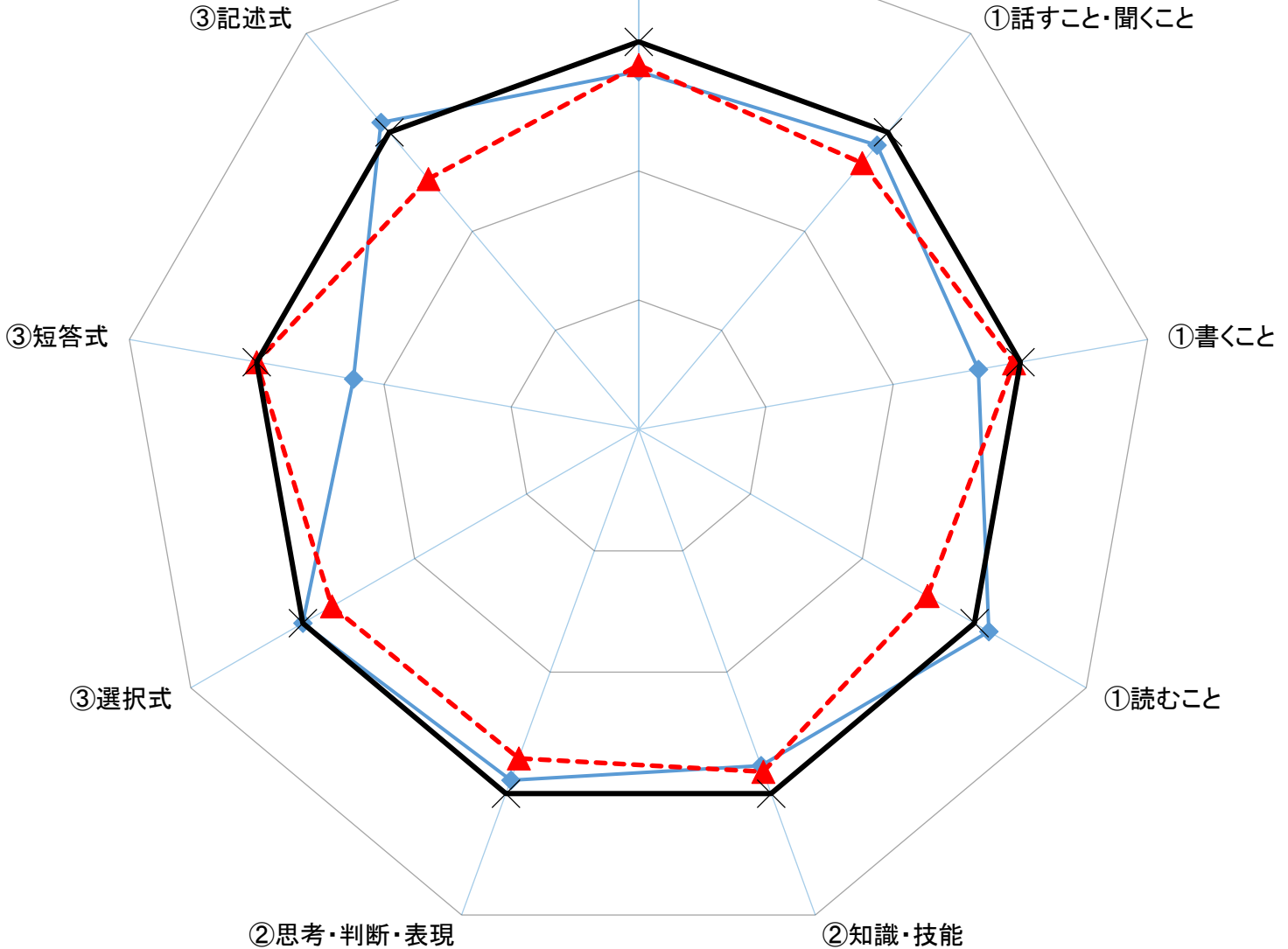
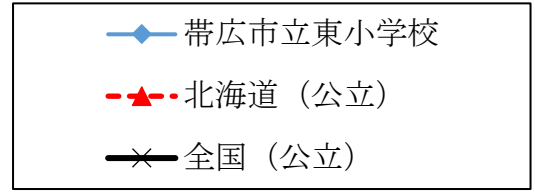


令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて

国語

①言葉の特徴や使い方に
関する事項

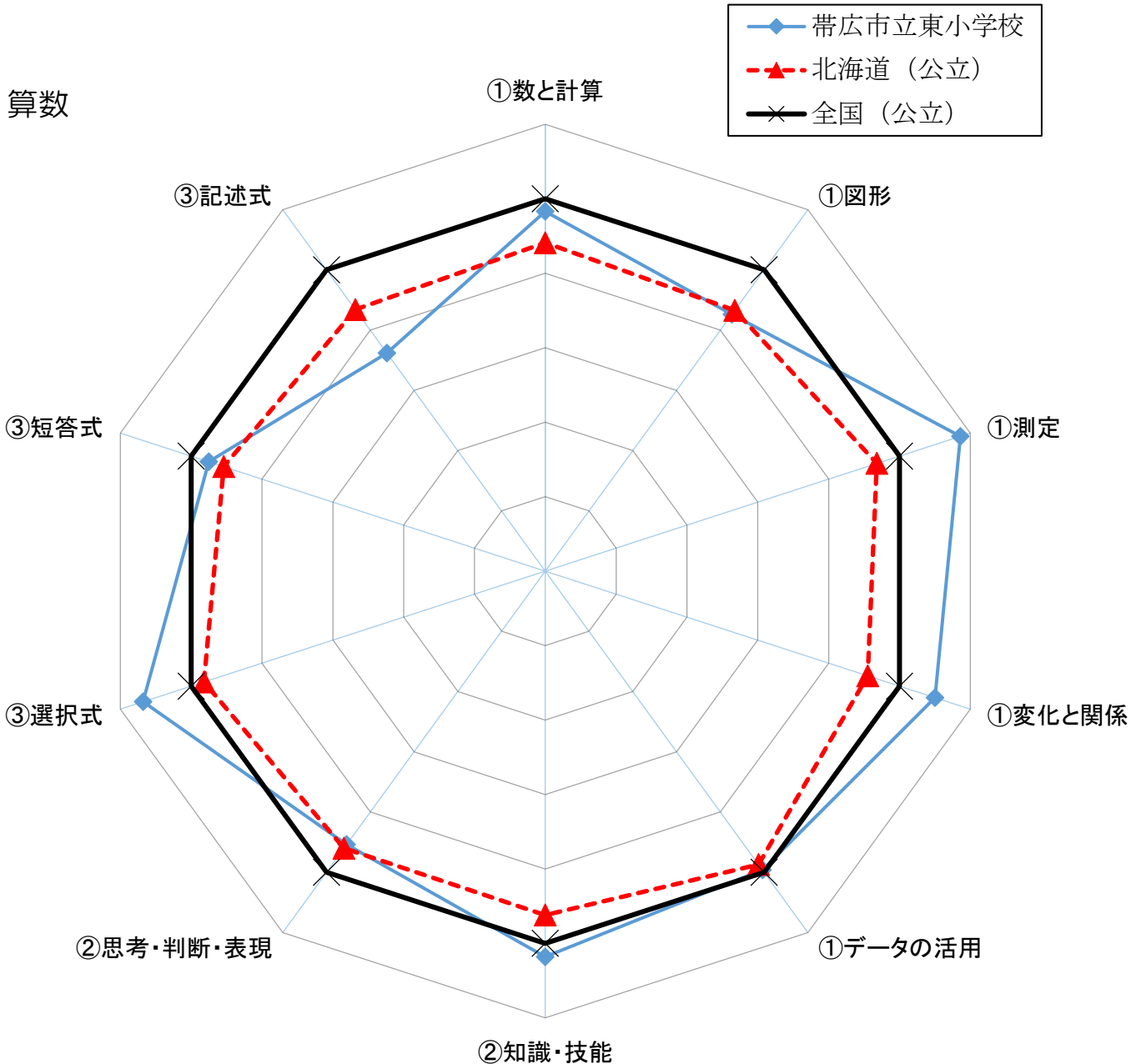


全体では全道平均を上回り、全国平均をやや下回った。読むこと領域で全国・全道平均を上回ったがそれ以外の領域では全国平均をやや下回った。

設問ごとに見ると、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける設問、文の中における修飾と被修飾との関係を捉える設問、漢字で原因を書く設問の正答率が高くなっている。また、記述式の設問の正答率が高く、授業での書く取組の成果が表れている。

字数制限など複数の条件で指定されて書くことや要約して書くこと、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えること、基本的な漢字の読み書きなどについては今後も訓練していく必要がある。

多くの設問で無回答率が低いが、正答率が低い問題では無回答率が高くなる傾向にある。全体としては課題に対して意欲的に取り組もうとする姿勢が感じられる。



全体としては全道平均を上回り、全国平均をやや下回った。測定領域、変化と関係領域で全国平均を上回り、数と計算領域、図形領域、データの活用領域で全国平均を下回った。

二つの道のりの差を求める設問、速さを求める除法の式と商の意味についての設問で全国・全道平均以上の正答率であった。特に速さを求める式については非常に高い正答率となった。

三角形の面積の求め方についての設問、小数を用いた倍についての説明の設問で正答率が低く、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することに課題がある。また、三角形の面積については、公式を忘れてしまったり、与えられた情報をすべて使ったりしたようで、必要な情報を選び出し、正しく使用することに課題が残った。また、表やグラフの理解や活用についても課題が残った。

算数でも全体的に無回答率が低いが、正答率が低い設問では無回答率が高くなった。全体としては課題に対して意欲的に取り組もうとする姿勢が感じられる。

学習状況より（全国・全道と比較して）

- 国語の勉強が大切だと思う児童が多い。
- 国語の勉強が好きだと思う児童が多い。
- 英語の勉強が好きだと思う児童が多い。
- 新聞をほぼ毎日読んでいる児童が多い。
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことをきちんと守っている児童が多い。
- 普段、1日当たりテレビゲームをする時間は2時間より少ない児童が多い。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童が多い。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う児童が多い。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童が多い。
- △ 国語の授業で言葉の特徴などについての知識を理解したり使ったりしている児童が少ない。
- △ 自分の考えと理由との関係が分かるように工夫して書く児童が少ない。
- △ 算数の勉強が好きだと思う児童が少ない。
- △ 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える児童が少ない。
- △ 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている児童が少ない。
- △ 学校の授業時間以外に、普段、1日1時間以上勉強する児童が少ない。

今後の取組

□基礎・基本の確実な定着

- 家庭学習の手引きをもとに、宿題・家庭学習の充実を図る。
- 朝学習の取り組みを全学年でしっかり実践していく。各種調査を活用し、児童の実態に応じた弱点の補充を継続する。

□ 授業の改善,充実

- 学習の約束をもとに学習規律の指導を徹底する。
- 単位時間の配分の工夫で個々の能力を伸長させる学習や他者との関わりで個を鍛える学習を位置付けることで内容の習熟を図る。
- 算数科を中心とした見方や考え方を伝え合い深く思考する指導を他教科へ広げていく。
- chromebook の活用で個に応じたわかる、楽しい授業づくりを行う。

□ 各種調査の活用

- チャレンジテスト、CRT 学力テストなどの結果の分析を学校全体で行い、各学年の課題となる分野や領域を明確にし、授業改善を図る。